

神戸市新中央区総合庁舎

建築場所	兵庫県神戸市中央区東町115番
建物概要	構造/階数：S造、一部RC造、SRC造 / 地上12階、地下1階 延べ面積：19,341.11 m ² 建築面積：1,880.71 m ²
環境指標	BEE=3.0(結果) BEI=0.65(結果) CASBEE (S★★★★★)
竣工年月	令和4年5月
事業者	神戸市
設計者	日本設計
施工者	大林組・神鋼興産JV

(仮称)新中央区総合庁舎 完成イメージ図



エントランスのイメージ



スカイデッキのイメージ



外觀北西面



外觀東面



外觀北東面



外觀北東面夜景



外觀北東面(早朝)



CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3CASBEE-SC_MC_2016V.1

1-1 建物概要

建物名称	新中央区総合庁舎
建設地	神戸市
用途地域	商業地域、防火地域
地域区分	6地域
建物用途	事務所、集会所、工場
竣工年	2022年6月 予定
敷地面積	3,597 m ²
建築面積	1,881 m ²
延床面積	19,342 m ²

1-2 外観

階数	地上13階 地下1階
構造	S造
平均居住人員	1,000 人
年間使用時間	4,000 時間/年(予定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2020年 3月 13日
作成者	奥村 由和
確認日	
確認者	



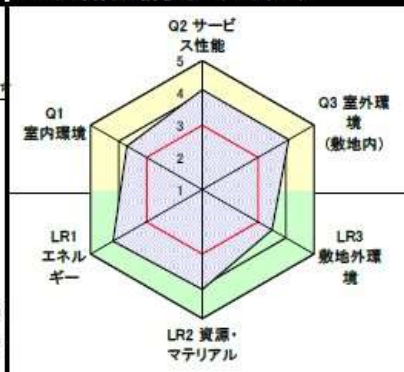
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

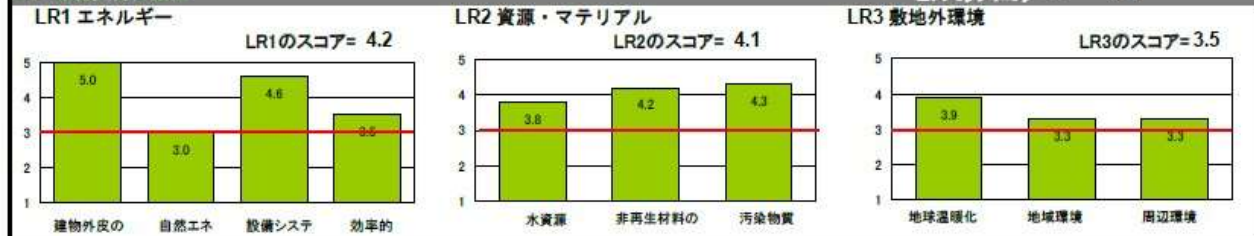


結果

2-4 中項目の評価(バーチャート)



LR 環境負荷低減性



3 CASBEE神戸の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 5.0 Q-2/2.4 信頼性 4.8	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 5.0
配慮の概要 バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たし、さらに建築物移動等円滑化誘導基準を極力満足させる計画とする。	配慮の概要 地上躯体は免震構造を採用しており、大地震時においても構造躯体が損傷しない(短期許容応力度以下)ことを目標としている。	配慮の概要 低層部分は旧居留地地区の街並みと調和した格子状のフレームに緑化プランターを一体化させたデザインとし、まちのシンボルとして『緑のシティコア』を形成。東面の高層部分はスカイデッキによる伸びやかな水平ラインを強調した外観とし、眺望を確保しながら日射負荷の軽減を図る。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE神戸ver.3
新中央区総合庁舎

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート	実施設計段階	環境配慮設計の概要記入欄				全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.9
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.7
1 音環境		3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.69	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.31	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を使用	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.5	0.35	-	-	3.5
2.1 室温制御		2.8	0.50	-	-	
1 室温		2.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	窓システムSC:0.43、U=2.2W/mk、外壁その他:U=0.81W/mk	4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	天井高の高い部分や地下駐車場上部には床放射空調を採用	5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.5	0.25	-	-	3.5
3.1 昼光利用		3.4	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	外部吹抜により積極的に自然採光を確保し、照明負荷を低減	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.23	-	-	
1 昼光制御	ロールスクリーン・庇を設置	4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	執務室は750Lxを確保	4.0	0.16	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.31	3.0	-	
4 空気質環境		4.6	0.25	-	-	4.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	外気取入は東面、排気は西面と南面とし、面を分けている	5.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 制御を導入し、中央監視システムで監視可能	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能						
1 機能性		4.1	0.40	-	-	4.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.26	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	執務室は50VA/m2以上の電源を確保	5.0	0.26	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.49	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.7	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	執務スペースの天井高2.7mを確保	4.0	0.26	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースに対して休憩室7.0%、自動販売機の設置を想定	5.0	0.26	-	-	
3 内装計画	コンセプトに基づく内装計画とバースによる検証を実施	5.0	0.49	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	外装まわりにメンテナンスバルコニー設置し、維持管理に配慮	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	屋上に設備架台を設け、メンテナンスに配慮	5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.7	0.30	-	-	4.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	免震構造を採用しており、告示レベルにおいて部材を損傷させない	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	免震構造を採用しており、建物全体の加速度を低減	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数一覧表より耐用年数30年以上の材を採用	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数一覧表より耐用年数20年以上の材を採用	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気ダクトの100%にSUS採用。	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・汚水雑排水・通気にVP管を採用。給水はメイン管はSUS管。	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		4.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	空調換気は災害時系統はG回路、熱源は電気ガス併用	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水型器具、切替樹、緊急排水槽、井水、受水槽に蛇口	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常発電機有、電源設備最上階、重要機器UPS有、受電設備二重化	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、情報機器は地上階設置、防災無線装置設置	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり		4.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.9m以上確保	5.0	0.46	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.195	4.0	0.54	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	機器更新ルートを確保	5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	旧居留地都市景観形成地域の景観計画に則して景観に配慮	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	吹抜、ピロティ、庇により豊かな中間領域を形成。軒天に木材を使用	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	高断熱化、Low-Eガラスの採用	5.0	0.19	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.65	4.6	0.51	-	-	4.6
4 効率的運用		3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価		3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	年間エネルギー消費量の目標値を提示	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	

LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護		3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水	自動水栓、節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	屋根雨水を雨水コlectorを介して雨水利用槽に貯め、灌水に利用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	既存地下躯体を残置	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	陶磁器質タイル、ビニル床材、点字紙	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS+仕上げ、OAフロアを採用し容易に分別可能な計画	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含まない材料を選定	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	窒素ガス消火を採用	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=1以下の断熱材を採用	5.0	0.33	-	-	
3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		3.9	0.33	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮	高効率熱源、LED照明、各種省エネ手法	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	雨水流出抑制対策として屋根雨水を貯留する雨水利用槽を設置	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	特殊な排水箇所、グリーストラップ、プラスタートラップ等を設置	4.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐車・駐輪場の適正台数の確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	有価物の計画的回収を実施	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.50	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明光害チェックリスト過半クリア、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建築物外壁による反射光(グレア)への対策	外装スカイデッキにより反射光を低減	4.0	0.30	-	-	